

欠席委員及び他部会の委員から事前にいただいた意見等

(事後評価対象)

①かしこい建築・住まいの実現のための建築技術体系に関する研究

○目標の達成度

成果目標に対して、「達成できなかった」「あまり達成できなかった」が過半数を占めており、研究機関と研究対象の組み合わせ方に再検討の余地があったかと思われる。

○研究成果と成果の活用方針

成果が出た一部については実用化を検討されたい。

○研究の実施方法、体制の妥当性

成果が出にくかった理由の一つかもしれない。

○本研究の妥当性、科学的・技術的意義、社会的・経済的意義、目標の妥当性

I Tや高度新材料技術を建築へ導入する科学的・技術的意義は依然として大きいと思われるが、社会的・経済的に見ればそれらの導入コスト・メンテナンスコストまで含めた評価をしないと意義は明らかにならない。目標の妥当性も含めて、新技術を建築物へ導入するあり方を再検討されたい。

(事前評価)

①建物の構造安全性能検証法の適用基準の合理化に関する研究

○必要性

研究の必要性は高い。

○効率性

研究の実施方法、体制はおおむね妥当であるが、多様な建築形態のあらゆる条件を考慮に入れることはきわめて難しく、試設計建築物で考慮しうる条件の範囲に留まる限りでは効率的であるということになる。

○有効性

研究成果の見込みと成果の活用方針も、試設計建築物で考慮しうる条件の範囲に留まらざるを得ないと思われる。

②建物用途規制の性能基準に関する研究

○必要性

研究の必要性は高い。

○効率性

研究の実施方法、体制はおおむね妥当であるが、立体用途規制についてもっと明確に課題認識をすべきであろう。

○有効性

研究成果の見込みと成果の活用方針については、制度化の可能性の議論になる。適用可能な条件の整理を行うことが実効性を高める鍵となる。

③都市整備事業に対するベンチマーク手法適用方策に関する研究

○必要性

研究の必要性はある。

○効率性

研究の実施方法、体制はおおむね妥当と思われるが、技術者が不足しているといわれる地方からの参加がどの程度可能か十分検討する必要がある。

○有効性

研究成果の見込みと成果の活用方針の点では、この手法の適用が有用と言われる現場の意見をどの程度反映させるかにもよると思われる。